

『変容する人影—Figurative Metamorphoses』展



- [左] 渡邊陽平《あらゆる透明な幽霊の複合体》(2011) キャンバス・パネル・アクリル・油彩、90.2 x 60.2 cm
[中] 杭春暉《Light from Above》(2012) 紙本設色、60 x 43 cm
[右] エジャズ・サイード《無題》(2012) ワスリ紙、ガッシュ、30.5 x 35.5 cm

展覧会タイトル 『変容する人影—Figurative Metamorphoses』展

会期 2013 年 7 月 13 日（土） - 8 月 10 日（土）

会場 東京画廊+BTAP | 東京
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7 階
TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

開廊時間 (火—金)11:00-19:00 (土)11:00-17:00
閉廊日 日、月、祝

オープニング・レセプション
2013 年 7 月 13 日（土） | 16:00-18:00
東京画廊+BTAP にて

出品作家 渡邊陽平、杭春暉、エジャズ・サイード

この度、東京画廊+BTAP では 7 月 13 日（土）より『変容する人影ーFigurative Metamorphoses』展を開催致します。本展には、日本、中国、パキスタンという三つのアジアの国から、渡邊陽平、杭春暉、エジャズ・サイードの三名のアーティストの作品を展示致します。彼らはいずれも人物をモチーフとした絵画を制作している作家で、杭春暉とエジャズ・サイードは、日本で初めての展覧会となります。

渡邊陽平は 1976 年長野県生まれ。2002 年に富山大学大学院教育学研究科を修了後、国内外で作品を発表しています。東京画廊+BTAP では 2007 年に個展『瞬きを紡ぐ』を開催し、2009 年には『VOCA 展 2009』（上野の森美術館）の出品作家に選ばれました。渡邊はアクリル絵具、油彩、色鉛筆など、近現代の素材を幾重にも重ねて描きます。描かれた風景と人物は、渡邊の世界観、人間観の反映であり、変容する現代人の影を映し出しています。

杭春暉（Hang Chun Hui）は 1976 年中国安徽生まれ。2005 年に中国中央美術学院視覚伝達専攻修士課程を修了、2011 年に中国芸術研究院現代水墨人物絵画専攻博士号を取得し、現在は中国北京理工大学芸術学院で教鞭を執っています。杭春暉は複雑な空間を現出させることを目的とし、それに相応しい線を画面に描くことを重視します。精巧且つ緻密に描く中国の伝統的技法を受け継ぎながら、そこに独自の認識と感覚を加えています。寂寥灰色の画面には、工業時代の憂鬱と現代的思考の深さが表現されています。

エジャズ・サイード（Ejaz Saeed）は 1987 年ラホール生まれ。2008 年にラホールの国立美術学院を卒業したばかりのアーティストです。在学中は細密画を専攻し、ムガル・ミニチュールの技術を継承しながら作品を制作しています。ワスリ紙やグワッシュなど伝統的な素材を用いて描かれるのは、過去の英雄や聖者ではない、現代の一般的な人物です。しかし円形の支持体はこれらの人物の光背に見立てられ、彼らに一種の聖性を与えるかのようです。

三名のアーティストは異なる文化的伝統を受け継ぎ、それを昇華させて独自の人物画を作り出しています。そこには、現代アジアという共通の世界に生きる私たちの意識が、多面的に映しだされています。

つきましては、本展の広報にご協力を賜りたく、ここにご案内申し上げます。

展覧会担当：佐々木博之 hiroyuki.sasaki@tokyo-gallery.com

tel: 03-3571-1808 fax: 03-3571-7689

web: www.tokyo-gallery.com